

NIHONJIN NO WASUREMONO
日本人の忘れもの
 第2部 忘れもの 44
 華 森 清 範 清水 寺 貞 主

いけばなの心



桑原仙溪
 桑原専慶流家元

結婚を決めた相手は、江戸時代から続く花道家元の娘であった。それが私がいけばなを習うきっかけとなり、心の中の美を形にする父と、おおらかに花と向き合う母と、もてなしの気持ちで伝える妻とともに、花の道を歩んできた。

**成すべきことを
 真剣に考え、
 変えるべきことは
 変える時がきている。**

あつて立てるのに一日かかったりする。花道は奥が深い。

もつと気楽に身近に花をいけてほしい



古典様式の「立花」には九つの役枝がある。松一色立花/桑原仙溪 写真=宇佐美宏

しかし、その半面もつと気楽に、身近に花をいけてほしいとも強く願う。心のこもったいけばなは、人の心を和ませる。花がいけてあると自分もまわりの人もほっとする。部屋の空気ががらりと変わる。そんないけばなの力を知ってほしいし、もつと暮らしに活用してほしい。



花に新たな命を吹き込み「生かす」ことを考え、構想する家元。ドイツ・テテロー市775年記念祭典にて花をいける家元と桑原櫻子副家元。(2010年5月/聖ペテロ・パウロ教会)

いけばなである。花の茎を水の中で切ると、ぐぐっと水を吸い上げる。葉に霧を吹いて手で広げるとしゃんとする。束をほどいて枝を本来の姿にもどすと気持ちがいい。若松の幹を手で磨き古い葉を取り去ると輝いてくる。「生かす」ために花や木に触れるうちに自然と心を通わせているのに気付く。いけばなを習って良かったと思う瞬間である。花を習っていないかったら、松の枯葉を掃除したあの清々しさを味わうこともなかっただろう。

私たちは自然に生かされ、豊かな心を養ってきた

いけばなに限らず、多くの芸術・文化は自然との関わりの中で生まれ育まれてきた。私たちは自然に生かされ、豊かな心を養ってきたのだ。自然の恵みを受けて生かされていることに感謝し、先人が培ってきた自然との関わり方を「学び磨いて生かし伝える」ことが大事だと思う。

2年前の大震災で、自分の成すべきことを、あらためて考えた人は多かった。福島原発事故によって原子力の恐ろしさに気付いた人も多かったはずである。安易に電気を得る代償に美しい豊かな自然との関わりが断ち切られてしまったのだ。放射能による内部被曝はこれからの影響を及ぼすか知れない。放射性廃棄物の処理もままならない。このことに私たちはもつと絶望すべきだ。そして、成すべきことを真剣に考え、変えるべきことは変える時がきている。子どもたちの未来のために。人も含めた美しい自然を損わないために。

●くわはら、せんけい
 1961年、大阪生まれ。80年、桑原専慶流入門。84年、同志社大工学部卒業。同年、同流14世家元長女櫻子と結婚。家元を補佐しながら教授活動を開始。2004年、15世家元襲名。日本いけばな芸術協会理事、京都いけばな協会副会長。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

きょうの季節せ(四用)

指入れて
 さざるの殻を
 すてにけり

渡辺白泉



栄螺の調理法はそのまま焼いたり、腸を取り除き、身をいくつかに切り分けて殻に入れ戻す、少し割り醤油を注いで焼いたり、いわゆる壺焼き、刺し身、蛸種にもよい。

殻にしろ栄螺はむしる握る方が持ちやすいように思うのだが、だから余程指をさし入れて持っている光景が珍しかったのであろう、詩因となつた。

(文・岩城久治)

「きょうの心伝て」

池田 裕
 主簿 京都市西京区/47歳

感謝の念

「風の中を自由に歩けるとか、はつきりした声で何時間でも話ができるとか、(中略)それができない者から見れば、神の業にも等しいものですね。そんなことは、もう人間の当然の権利だなどというふうな考えでは、……」

これは、作家の宮沢賢治が農学校の教員に宛てた手紙の一部分です。日常生活の中で、目が見えて、話せて、歩いて、走れる。そんな当たり前、歩柄は、この文を詠むのは、実はとても尊いことなのだ、ハッと気付かされます。

若い頃は、さまざまな行動がスムーズにできたりしますが、年を経るたびに、視力が衰え、筋力がなくなったり、できなくなることが増えていきます。みんなが平等に老いていくのです。だからこそ、普段から当たり前と思わず「神の業にも等しいのだから」と慎重に、そして感謝の念を持って行動していきたいものです。

そう思いながらも、ついつうっかり忘れてしまうのが人間ですが……

「きょうの心伝て」募集

●あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか? 暮らしている中で忘れてはならないと思う日本人の心の系譜や、伝えたい京都に残る心遣いなどをお寄せください。京都新聞社で選考、添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内)、郵便番号、住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。

Email: wasuremono@nhk-kyoto.co.jp
 Fax: 075-26212200

●日本人の忘れもの第2部のバックナンバーは、京都新聞ホームページでご覧いただけます。
http://kyoto-njp.jp/kyo_an/info/new/



モリタイメージキャラクター土屋巴瑞季

歯の健康、感じてますか?

私たちモリタグループは、治療機器の製造、診療空間のプロデュースや各種サービスを通じ、歯科医療をトータルにサポートしている京都生まれの企業です。

人々の歯の健康を支え、幸せにする。その想いで、もうすぐ100年。これからも、ずっと、人に寄り添って進んでいきます。

Thinking ahead. Focused on life.



もうすぐ100周年。

株式会社モリタ
 大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525
 東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161

株式会社モリタ製作所
 本社工場 京都府京都市伏見区東浜南町680 〒612-8533 TEL:075-611-2141
 久御山工場 京都府久世郡久御山町市田新珠城190 〒613-0022 TEL:0774-43-7594

株式会社モリタ東京製作所
 本社工場 埼玉県北足立郡伊奈町小室7129 〒362-0806 TEL:048-723-2621